

デイリー・ジーザス・ニュース #245

受難週：日曜日...歓呼と賛美の日

神殿の境内で奉仕するイエス

マタイ21. 10-11, 14-17（並行聖書：マルコ11. 11）

10 イエスがエルサレムに入られると、町中の人々が騒ぎ出して、「これはいったい、だれだ」と言った。

11 群衆は答えた。「これはガリラヤのナザレの預言者イエスだ。」

14それからイエスは神殿に入り、すべてのものを注意深くご覧になった。すると、盲人や足の不自由な人がイエスのもとに來たので、そこで彼らを癒された。

15 しかし、祭司長たちや律法学者たちは、イエスの行われた不思議な業と、宮の境内で「ダビデの子に、ホサナ」と叫んでいる子供たちを見て、激しく憤った。

16彼らはイエスに尋ねた。「この子供たちが何を言っているのか、聞いていますか。」

「はい」とイエスは答えた。「あなたはまだ読んだことがないのですか、

「子供や幼児の口から

主よ、あなたはあなたの賛美を呼び起こされました。？」（詩篇 8章2節）

17 しかし、もう夜も遅かったので、イエスは彼らを残して、十二弟子とともに町を出てベタニアに行き、そこで一夜を過ごした。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	エルサレムの神殿
タイムライン	4月上旬（39ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	A. 日曜日：歓呼と賛美の日
タイトル	4. 神殿の境内で奉仕するイエス

コメント：

イエスがエルサレムに到着し、神殿に直行したのは、枝の主日の午後でした。ベタニアからエルサレムまでの2マイルの道のりは、本来1時間もかからないはずでしたが、実際には丸一日かかってしまったのです。群

デイリー・ジーザス・ニュース #245

衆の規模の大きさと、道中イエスが浴びせられた歓声は、まさにその通りでした。イエスが神殿に到着した頃には、エルサレムの街全体が揺さぶられていたのも無理はありません。

イエスは神殿の庭を注意深く調べられた。多くの子供たちがイエスを賛美し続けていることから、イエスは外庭、おそらく東側のソロモンの廊下付近にいたことがわかった。そこは神殿の北側にある女の庭と南側にある異邦人の庭を繋ぐ場所だった。イエスは両替屋や犠牲の動物を売る者たちの台が商売を終えているのを見て激怒した。そして、朝一番にそれらを片付けようと決意した。

「盲人や足の不自由な人々」、つまり不治の病に苦しむ人々が神殿に集まり、イエスは午後から夕方まで彼らを癒しました。新たな奇跡が起こるたびに、子供たちは新たな賛美の言葉を捧げました。それは喜びと驚きが溢れるひとときでした。癒された人々の多くは、きっと混雑した神殿の中を「歩き回り、跳ね回り、神を賛美」したことでしょう。

パリサイ人たちは過去3年間、イエスがメシアであることを確認する「しるし」を繰り返し求めていました。そして今、彼らはメシアのしるしが次々と目の前で起こるのを驚嘆しながら見ていました。しかし、イエスに対する彼らの態度は変わりませんでした。彼らはイエスの賜物と力に嫉妬し、子供たちの賛美に異議を唱えました。イエスは子供たちの礼拝の正当性と必要性を証明するために、ただ聖書の一節（詩編8章2節）を彼らに引用し、日が暮れるまで困っている人々への奉仕を続けました。

これらの奇跡は、イエスが待ち望まれていたメシアとして一日中受けていた称賛と歓呼が正しかったことの決定的な証拠でした。それは、2年前、洗礼者ヨハネ（DJN #083）が、メシアに関する自身の概念と、イエスの現実とその宣教活動との間の相違に苦悩していた時に、主がヨハネに示されたメシアの聖書的しるしと同じものでした。イエスが公にメシアの称号を受け入れた日に、これらの奇跡は、イエスが確かにダビデの子であることの貴重な証拠となりました。

この場面で、もう一度イエスの心を理解する必要があります。この日はイエスを賛美し、歓呼する日でした。イエスのもて来るまでには長い時間がかかりました。しかし、イエスは町の失われた人々を悲しみ、涙を流しながら、ご自身の特別な日に他の人々への奉仕に時間を費やしておられます。この方こそ栄光の主です。真に、イエスはすべての人への愛の僕であり、今もなおそうおられます。だからこそ預言者たちはイエスの奇跡を預言したのです。

応用：

真の偉大さとは、絶え間ない奉仕へと導く愛です。イエスの例から、真の奉仕者の心は状況に左右されることがわかります。愛はただ仕えること、どんな状況においても。それ以外に道はありません。イエスの模範は、この点を決定的に証明しています。

愛をもって他の人々に奉仕するために、今日、どんな状況を克服する必要がありますか？

今日、あなたは宣教において、どのように神の愛をあなたを通して流しますか？どんな賜物を用いますか？誰に仕えますか？どのように神に栄光を捧げますか？

デイリー・ジーザス・ニュース #245